

**陸奥湾
漁場環境調査情報**

水産総合研究センター
増養殖研究所
電話 017(755)2155

平成19年の底質調査(7月3, 4日、9月19, 25, 26日実施)の結果が判明しましたので、その結果の概要をお知らせします。

底質調査結果

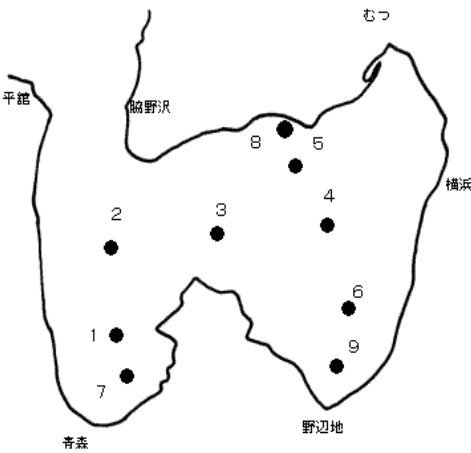
9月調査時の底層の酸素量は、5.9~7.2mg/Lの範囲となり、St.5で水産用水基準(2005年)の6.0mg/Lを下回る5.9mg/Lとなりました。

底質の結果は、ILは2.0~11.7%、TSは0.01~0.18mg/g、CODは2.0~39.3mg/g、含泥率は3.8~65.1%の範囲でした。CODについては、St.1~6で昨年と同様、基準値を超える値となり、調査を開始した平成10年から同様の傾向で推移しています。

このほかは、図に示したとおり、概ね平成8年からの調査結果の変動範囲内であり、湾全体での有機的な汚染の進行は認められませんでした。

また、沿岸寄りの調査地点であるSt.7, 8, 9では変動の大きいTSを除き、低い値で推移しています。

調査項目



- IL : 強熱減量(海底泥を高温で加熱した際に燃える有機物の量)
- TS : 全硫化物量(海底泥中の硫化物量)
- COD : 化学的酸素要求量(海底泥中の有機物量)
- 含泥率 : 63μm以下の泥粒子の重量百分率(細かい泥には有機物が多い)。

※これらの4項目は全て底質の有機汚染の指標で、数値が高いほど汚染が蓄積しているといえます。

項目	「水産用水基準2005」による基準値
TS	0.2mg/g 乾泥以下
COD	アルカリ性法で20mg/g 乾泥以下

底質調査地点

